



GOOD MORNING

- P02: 特集① 事業と向き合う 倫理経営実践塾
- P06: 特集② 本と繋がる 後継者倫理塾
- P10: 同窓の繋がり 倫理と大学OB OG会
- P13: 大好評! 多摩の恵み MS朝食グルメ!
- P14: イベント開催報告 MSクリニックなど
- P15: コラムコーナー(AI / 朝礼委員会)
- P16: イベントカレンダー
編集後記(広報委員のご紹介)

3

MARCH
2026

Vol.434

正
対
せ
よ。

熱列果敢

NETSURETSU
KAKAN

倫理経営実践塾

特集1

倫理経営実践塾は、自己流の経営や場当たりの判断から脱却し、10か月間で「本質的な経営力」を叩き込む研鑽の場として4期目を迎えた。今回は東京都の中心を担う、倫理経営実践塾および後継者倫理塾の修了生にスポットを当て、塾での学びがその後の単会運営等にどのように活かされているか、第一期生の3人と塾頭・副塾頭に話を伺った。

1期生として卒業後、立川昭島倫理法人会会長として会員数100社を達成し、今期多摩西地区の地区長としてご活躍の杉林強さんに、広報委員石原と杉林さんと同期でもある編集長高岡が話を伺いました。

高岡： 倫理法人会の活動、今日まで続けられた要因は何だったんですか。

杉林 強氏： それはもう、「倫理経営実践塾」一択です。本当に軽いノリで参加したんですが、あれがなかったら、確実に倫理法人会は辞めてました。人生が変わったターニングポイントですね。

石原： 実践塾での学びが、経営判断にどう響いたんでしょう。

杉林 強氏： 一番は、判断の軸が完全に変わったことです。自分の感情とか「得か損か」じゃなくて、「純粹倫理」で判断するようになった。「正しい判断は理念から生まれる」って教えが腑に落ちてから、決断のスピードも、決めたことをやり切る覚悟も、劇的に上がりました。社長である僕が迷わなくなったら、不思議と会社全体が自然と動き出すようになったんですよ。

高岡： 卒業して4年、業績とか社員の成長にも影響はありましたか？

杉林 強氏： めちゃくちゃ役立っていますよ。本当に。業績も伸びたし、人も育ちました。社員は、行動が早いし、提案力や実行力が尋常じゃない。みんな例外なく伸びています。これはもう、「まず自分が変わる」「姿で示す」という倫理の基本を1年間徹底的に叩き込まれた結果でしょうね。

一倫理法人会に3ヶ月で辞めるつもりだった杉林強氏が、今も学び続けている理由は「倫理経営実践塾」にありました。

杉林氏は、「続けて、本当によかった」と語り、社会貢献と社員の幸せを願う経営者であれば、倫理経営実践塾は、どんな変化にも負けないブレない経営の軸と、経営者としての確固たる哲学と自分を磨くチャンスを必ず与えてくれると断言しています。

倫理経営実践塾 卒業生
杉林 強
多摩西地区長

正確な正しい判断は、理念から生まれる

あんなに恨んでいた親父に、心から『ありがとう』と思えた。

「実はね、3期連続で年間3000万円もの赤字だったんです。当時はもう、すぎるような思いでしたよ」
穏やかな笑顔でそう語ってくださったのは、株式会社オリックコーポレーションの代表取締役、志村さんです。東京都倫理法人会において、今や組織の主軸として活躍されている「倫理経営実践塾」の修了生たち。その記念すべき第1期生である志村さんの言葉には、修羅場をくぐり抜けてきた経営者だけが持つ、静かな説得力がありました。

かつての志村さんは、お父様から引き継いだクリーニング業の経営に苦しんでおられました。借金ごとの承継。必死に働いても数字は改善しません。そんな時、高嶋民雄塾頭による「倫理経営実践塾」への入塾を勧められたのです。そこは、単なる精神論の場ではなく、財務とマーケティングという「論理のメス」で自社を解剖する、厳しくも実践的な学びの場でした。塾での学びは、すぐに経営の現場へ投げられました。お金の流れ(財務諸表)を徹底的に分析し、志村さんは大きな決断を下します。それまで売上の半分を占めていた店舗事業を縮小し、ホテルなどの法人向け集配業務へ大きく舵を切ったのです。この決断は見事に奏功しました。赤字続きだった決算は翌年黒字に転じ、その後も2000万、3000万と利益を積み上げるV字回復を遂げられたのです。「近年出すことができなかったボーナスを、社員に手渡せた時は本当に嬉しかった」と語る志村さんの表情が、ふっと緩みます。

しかし、数字の回復以上に興味深いのは、志村さんをはじめとする塾の修了生たちが、なぜこれほどまでに東京都倫理法人会の活動で大きな力を発揮しているのか、という点です。その理由を尋ねると、志村さんは「ガードレール」というキーワードを使って、その秘密を解き明かしてくれました。

崖っぷちからのV字回復。倫理経営実践塾で見つけた「経営のガードレール」

～迷いが消え、責め心がなくなる。修了生たちが輝く「強さ」の秘密～

「倫理経営とは、自然の法則という『ガードレール』に守られて走るようなものです。ここから外れなければ、道を踏み外すことはありません。塾でその感覚を叩き込まれているから、私たちの判断には迷いが無いのです」
彼ら修了生に共通する特徴、それは「責め心(せめごころ)がない」ことだといいます。例えば、朝礼の動作確認を行う「チェックリーダー」という役割があります。修了生たちは、この役割が非常に上手だと言われています。それは単に手順を知っているからではありません。「自然の法則(ガードレール)」という絶対的な基準を理解しているため、個人的な感情で相手を責めるのではなく、正しい道へ導くための指摘ができるからです。「基準が明確だから、判断に迷う時間がなくなるんです。経営も、会の運営も同じ。ガードレールの中でアクセルを全開に踏めるから、スピードも出るし、成果も上がるんですよ」
会長職などの役職を受ける際も同様です。以前なら「自分には無理だ」と躊躇していた場面でも、ガードレールに沿って「来た球を打つ(素直に受ける)」ことができる。論理的に学び、体験を通して「法則」を確信しているからこそ、彼らの行動にはブレがなく、周囲からの信頼も厚くなるのでしょう。

また、志村さん自身にとって最大の「心のガードレール」となったのは、亡きお父様への想いでした。かつては借金を残した父を恨むこともありましたが、しかし、V字回復の決定打となった大手ホテルとの取引が、実はお父様が昔築いたご縁のおかげであったことを知ります。「あんなに恨んでいた親父に、心から『ありがとう』と思えたんです」。事業承継とは、資産だけでなく、見えない「徳」や「ご縁」を引き継ぐこと。その事実気づいた時、経営者としての本当の強さを手に入れたのです。現在、志村さんの会社には息子さんも入社され、お父様と同じく実践塾で学ばれています。「親父の敷いたレールに乗るのも、悪くないみたいですよ」と笑う志村さんの横顔に、もはや迷いはありません。経営という終わりのないマラソンにおいて、倫理という確かな地図と、財務というコンパスを手に入れた親子の姿。取材を終えた後、爽やかな風が吹き抜けたような清涼感が残りました。確かな「ガードレール」を見つけた経営者は、これほどまでに強く、そして優しいのです。

倫理経営実践塾 卒業生
志村 成昭
武蔵野副地区長

倫理で心を整え、塾でそろばんを弾く。相談役

「数字」に誠実なリーダーが、組織の未来を創る。

～亀戸の整骨院経営者が語る、倫理経営実践塾「一期生」の誇りと論理～

「経営において、最も恐ろしいのは「見たい数字だけを見ること」。つまり、数字にお化粧をしてしまうことなんです」東京の下町、亀戸で長年愛される整骨院を運営する坂下さんは、静かな口調でそう語り始めました。彼は、高嶋民雄塾頭が立ち上げた「倫理経営実践塾」の記念すべき第一期生です。この塾は、経営者が自社の事業計画を財務とマーケティングの観点から客観的に見つめ直す、極めて実戦的な学びの場。今、東京都倫理法人会の各組織で、この塾の卒業生たちが目覚ましいリーダーシップを発揮している背景には、一体何があるのでしょうか。

「お化粧数字」を剥ぎ取る勇氣

坂下さんが塾で最初に突きつけられたのは、徹底した「事実」への向き合い方でした。「自分の経営する院の決算書をさらけ出し、プロの講師陣から『この数字の根拠は何か』と厳しく問われます。例えば、目標売上を達成するために、1日の稼働時間の中で何人の患者様を診る必要があるのか、それは物理的に可能なのか。そこまで突き詰めると、それまで自分がいかに「願望」だけで数字を作っていたか、つまり数字にお化粧をしていたかが浮き彫りになるのです」こまかしの利かないシビアな数字と向き合う。この「現状を正しく把握する力」こそが、経営者としての、そしてリーダーとしての真のスタートラインとなります。

経営と「単会運営」を貫く一つの論理

坂下さんが実践塾を通して気づいたことは経営と、倫理法人会の単会運営は「共通点が多い」ということでした。単会において、会員数が伸びない、あるいはモーニングセミナーの活気がないといった現象には、必ず経営と同じ「構造的な問題」が潜んでいます。修了生たちが組織運営に強いのは、問題を感情ではなく、マーケティングの視点で分析できるからです。自分たちにベクトルを向けて客観視できる能力こそが、塾で鍛えられた力なのです。

「努力と根性」から「根拠ある拡大」へ

実践塾の卒業生たちが会の運営にもたらしたのは、疲弊しないための「論理的な拡大」です。「闇雲に100社を目指すのではなく、財務の視点で予算を考え、マーケティングの視点でターゲットを絞る。計画通りに進まなければ、何が間違っていたのかをPDCAで回して見直す。根拠があるからこそ、仲間も納得して動けるのです」塾で財務の厳しさを学んだ修了生は、「守るべきところは守り、攻めるべきところでアクセルを踏む」という判断に迷いがありません。このバランス感覚が、組織に安定した成長をもたらしています。

さらけ出したからこそ得られた「一生の絆」

また、塾生同士の絆も大きな要因です。互いに赤字も苦難もさらけ出し、同じ釜の飯を食った一期生たちの絆は、単なる友人を越えた「戦友」に近いものです。「誰にも言えない経営の悩みを、本音で相談できる仲間がいる。それは、リーダーとして孤独になりがちな役職者にとって、何よりの心の支えです。この安心感があるからこそ、会のお役にも全力で立ち向かえるのです」

清々しいリーダーが、新しい時代を拓く

取材の最後に、坂下さんは清々しい表情でこう締めくくりました。「倫理で心を整え、塾でそろばんを弾く。この両輪が揃って初めて、私たちは本当の意味で社会のお役に立てるのだと思います。卒業生が東京都の要職に呼ばれるのは、彼らが「苦難を力に変え、数字で結果を出す方法」を体得しているからに他なりません」亀戸の地で日々患者様と向き合いながら、同時に組織の未来をも見据える坂下さん。彼の瞳に宿る確信は、倫理と倫理が響き合う「新しいリーダー像」を雄弁に物語っていました。

倫理経営実践塾の価値は、経営者が知るべきフレームに基づいて「言語化」「行動設計」「検証」を図れることにあり、そこに倫理の「純情(すなお)さ」を基盤とした実践により経営成果を上げることにあります。

そのような体験を通じて、卒業生は単会運営で「揺るがない意思決定」と「再現可能な成果」を打ち出し、結果として東京都での人材輩出に貢献することができるのです。

単なるスローガンや検証できないアクションに頼るのではなく、会長の個性を基にした「本物の言語化」から会を動かすこと—それこそが倫理経営実践塾が東京都倫理法人会に対して提供している価値といえます。

倫理経営実践塾 副塾頭

加藤直人

本物の言語化から会を動かす

重圧から逃げずに実践を繰り返すことで、経営者は本物のリーダーへと鍛え上げられる

「数字」は嘘をつかない、だからこそ「心」が試される

～東京都倫理法人会の躍進を支える「倫理経営実践塾」の全一統体～

「どんなにかっこいいプレゼンをして、数字だけは嘘をつけません。数字を突き詰めると、その経営者の『生き方』が全部見えてしまうんです」穏やかに、しかし核心を突く言葉を投げかけるのは、東京都倫理法人会「倫理経営実践塾」の高嶋民雄塾頭です。現在、東京都倫理法人会において、若手会長や役職者として目覚ましい活躍を見せているリーダーたちの多くが、この塾の門を叩いています。なぜ、本業の経営を学ぶこの塾の修了生が、会の運営でも圧倒的な力を発揮するのでしょうか。

「一人社長」を卒業し、公の器へ

高嶋塾頭がまず説くのは、経営者の「覚悟」の違いです。「一人社長は一馬力。自分の好きなようにできる分、学びも浅くなりがちです。ですが、社員を抱え、その家族の人生まで背負うことで、経営者は初めて本当の困難に直面します。社員の問題は、すべて社長の責任。その重圧から逃げずに実践を繰り返すことで、経営者は本物のリーダーへと鍛え上げられるのです」社会の課題を解決し、地域に貢献する「公(おおよけ)の器」としての会社作り。この志が、塾生たちの意識を劇的に変えていきます。

全一統体—すべては「ひとつながり」

塾の根幹にあるのは、純粋倫理の基本原則である「全一統体(ぜんいつとうたい)」です。「家庭がうまくいっていないのに、会社だけが良くなることはありません。同様に、本業をおろそかにして会の活動だけを頑張っても、真のリーダーにはなれないのです。家庭、会社、そして倫理法人会。これらは別々のものではなく、すべては自分の「心」で繋がったひとつの姿なのです」この「一事が万事」という考え方が浸透すると、塾生たちは何事にもこまかしのない、誠実な姿勢で向き合うようになります。

「成果」こそが最高の恩返し

実践塾が最も重視するのは、具体的な「結果」です。塾では3期分の決算書をさらけ出し、財務とマーケティングの観点から徹底的にメスを入れます。「学んでよかった、で終わらせてはいけません。利益を出して初めて、社員や家族を幸せにでき、社会に貢献できるのです。例えば、ある塾生は売上至上主義を捨て、粗利(あたり)を追求する体質へ改善したことで、経常利益を数倍に伸ばしました。こまかしの利かない数字と向き合い、自社を改善できたという自信。これが、「自分も変わりたい、もっと貢献したい」という強い欲求を呼び起こします。

網の目のように支える「師弟の絆」

塾の運営は、中小企業診断士や税理士などの専門家、そして卒業生たちがメンター(助言者)として支える、網の目のように緻密なフォロー体制が敷かれています。「塾頭がいなくても回る仕組みを作ること。そして、先輩が後輩を全力で育てること」。この手厚い環境で育った修了生たちは、倫理の学びを「経営の言語」として記憶し、血肉化していきます。

数字に強いリーダーが、会の未来を創る

こうして塾で「数字(事実)」から逃げない姿勢を身につけた修了生たちが、今、東京都倫理法人会の成長を力強く牽引しています。「本業で数字の根拠を突き詰められる人は、会の運営においても、闇雲ではない確かな普及計画を立て、着実に達成することができます。経営が良くなった喜びを知っているからこそ、その価値を自信を持ってゲストに伝えられる。彼らの言葉には、魂がこもっています」

倫理経営実践塾 塾頭

高嶋民雄

後継者倫理塾

特集2

後継者倫理塾は、事業の後継者や、自分を変えたい！と本気で挑戦する塾生たちが参加する実践型の学びの場です。知識習得ではなく、自己を見つめ、人間力の向上と実践力の強化を重視したカリキュラムが特徴です。合宿研修や長期の実践を通じて、立ち居振る舞い、覚悟、全力でやり切る姿勢を養い、創業の精神、恩意識、自分の在り方を自覚することを目指します。10か月間の研修で業を深く学びます。（講師は倫研の研究員、法人スーパーバイザー、など）。試行錯誤しながら実践や自己開示・切磋琢磨することにより、同期塾生の連帯感が強まります。先輩修了生も運営に参加し、率先垂範、厳しくも温かいサポートをします。

【主な特徴的カリキュラム】

・業解説、倫理体験講話、富士高原研修所での研修、100日実践、家系図の作成、活力朝礼甲子園のデモンストレーション出場、など。（期によって一部内容が異なります）

「倫理の『り』の字も知らず、興味もありませんでした」。大沢豪さんの入会は知人の熱心な誘いに応じたもので、関心は薄いま後継者倫理塾（以下、後継者塾）19期へ入塾しました。

大沢さんは税理士家系に育つも親に反発し、定時制高校に通いながら重量鉄骨を担ぐ日々を送ります。23歳の時、将来を考え税理士の母を頼りました。提示された簿記2級取得の条件を突破し、29歳で試験に合格。大学院でも成果を上げ、今の自分があるのは100%自分の努力だと確信していました。

事業継承後、理念研修を担当する南山太志氏（霞が関倫理法人会 会長）から母への手紙を勧められますが、衝突の絶えない母に「書けない」と断ります。しかし、塾での学びが心を溶かしました。富士高原研修所（富士研）で手紙を書く中、男性ばかりの業界で、女手一つで家庭を支えるため強くならざるを得なかった母の背景を理解します。多くの顧問先を継承した事実「ようやく申し訳なかったと思え、自分が変わった」と述懐します。

心の変容は周囲を変えました。以前は結果至上主義でしたが、自身の歩みを肯定でき「もがく過程が大切だ」と子供たちの姿を尊べるようになったのです。富士研から帰宅後、妻へ課題の手紙を渡し、母への手紙も見せました。夫の決意を汲んだ奥様がその思いを娘さんに話したのでしょうか。父の「柔らかい」変化を見ていた大学3年生のご長女が昨年末、「税理士になるには？」と問いかけてきました。娘さんは年明けから簿記学校のコースに入っています。

変化は事業にも及びました。「因は我にあり」の自覚から、社員のミスを自身のフォロー不足と捉えるようになり、職場の空気は明るくなりました。大沢さんは、100日実践等で理解を加速させる塾を「最高の入り口」と呼びます。「自力で得たものは自分だけの力ではなかった」。自らの歩みを家系の流れとして受け入れた三代目は、今、次代へのバトンを握っています。

自らの歩みを家系の流れとして受け入れた

後継者倫理塾 修了生
港区副事務局長 大沢豪

本人も気づいていないような口癖や、所作をよく見るようにしていました。

塾生の「すなおさ」を引き出すために本(もと)とつながり、心の癖をほどく

東京都後継者倫理塾は今期、20期の節目を迎えました。塾長を務める澤田省悟氏は、入塾してくる塾生たちの姿を、鋭く、かつ温かい眼差しで観察し続けています。「入塾当初から目的が明確な人もいれば、親の勧めで戸惑いながら入る人もいます。しかし、修了までに倫理を正しく認識し、自らの目的を定めていくプロセスにこそ、塾の真価があるのです」

観察から始まる「気づき」のアシスト

澤田塾長が指導で最も重視するのは「観察」です。無意識の口癖や所作にこそ、課題の核心が隠れているといいます。「相手と正対して挨拶ができる人は意外と少ないものです。その原因を探ると、過去の原体験で身についた習慣に行き着くことがあります。例えば、聡明ながら正対が苦手だったある塾生には『旅館で朝一番に会う時でも、しっかり挨拶をするように』と助言しました。彼はこれを実践し、相手によって変えていた態度を改め、見違えるほど丁寧に接するようになりました。本人が『これかな』と気づくためのポイントを見つけ、そっと背中を押すイメージを大切にしています」

すなおさを遮る「壁」を、過去から紐解く

澤田塾長が「最大の集中をしている」のが、塾生の「すなおさ」を引き出すことです。「特に親との確執が原因となるケースが多いですね。そこで百日実践では、両親から自分が生まれた時の話を聞き取り、日記や手紙に書き出すよう指導しています。自分のこだわりや心の癖の原因に気づき、両親に謝罪や感謝を伝えられれば、自ずとすなおさにたどり着けます。強制ではなく、本人の好奇心を湧き立たせる誘導を心がけています」今期は開校直後の富士研合宿を「本(もと)とつながる」時間とし、厳しい訓練より内省を優先しました。まず体で倫理の世界観を感じることで、拒否感のある塾生も「歩くところから」始められるよう配慮したのです。

覚悟を持って「あり方」を磨く

澤田塾長は、塾を「あり方を学ぶ場」と定義します。「最後はやはり『覚悟』。自分の人生を良くしたいという本気度です。塾生同士のLINEで毎日実践報告をし、運営側が愛情を持って鼓舞する。限界を超え、棚上げしてきた課題に仲間と向き合う。それが塾の『本気』です」かつて塾生として学び、恩返しができなかった時期を経て、今、塾長としてバトンを繋ぐ澤田氏。その視線の先には、純粋倫理を基底にした経営者が育ち、各単会の運営を盤石にする未来があります。「塾生も運営も、一人も漏らさず幸せになってもらいたい。本気で向き合えば、その連鎖は必ずつながっていきます」



後継者倫理塾 塾長
澤田 省悟

僕は豆腐メンタルやった：

倫理法人会で活躍する人のバックグラウンド

「自己革新」の実践道場で見つけた新しい自分

「なぜ後継者倫理塾の修了生は各所で活躍しているのか」。そんな問いに中野区の井田会長は「自分で言うの？」と照れながらも、原点である塾の価値を語りました。第17期修了生の井田さんは、塾を「自己革新」のための実践道場と振り返ります。大きな変化は言葉の変容でした。「～しようと思います」という曖昧な表現を禁じ、「『思います』を封印したのが大きい。逃げる自分を守る言葉になるから」と語ります。決意を「言い切る」実践が、周囲から「男らしくなった」と信頼される現在の土台となりました。

「豆腐メンタル」を支えた仲間の絆

過程は平坦ではありません。井田さんは当時を「豆腐メンタルだった」と振り返ります。厳しい実践から逃げ出し音信不通になった時期もありましたが、当時の塾長や同期、先輩スタッフの献身的なサポートが彼を呼び戻しました。「弱さを出せる人の方がカッコいいんだからな」。その教えの通り、仲間に弱さを開示した経験が不要なプライドを溶かしました。「人間関係が楽になった。嫌な時は嫌と言える」と笑う通り、現在は飾らない自然体なリーダーシップに繋がっています。

仲間と共に、中野の未来を拓く

現在、会長として中野区を率いる井田さんの視線は未来に向けられています。塾で養った感度を武器に、組織をよりオープンにしたいと考えています。特に自身と同じ30代や20代の仲間を増やすべく、任期満了に向けて会員数100社・MS参加者100名を共に達成する「8.26ダブル100（はってんにいろく だぶる ひゃく）」を掲げます。「達成した時に中野区は初めて日本一になる」。その言葉には、次世代への継承と自己革新を止めない塾修了生としての矜持が滲んでいました。

後継者倫理塾 修了生
井田 孝
中野区 会長

後継者倫理塾がもたらした「感謝」と「自責」の变革

その原点は、内面から湧き上がる「感謝」と、問題を自分に求める「自責」にありました。

「参加して本当に良かった」と林専任幹事は語ります。入塾前は会費を払う「お客さん感覚」でしたが、塾を通じ、先輩方の努力、真心に触れ、見方が一変しました。

「応援は当たり前ではないと気づき、自然と感謝が湧いてきました」と語る。

課題を終えられず葛藤した日々、足を止めなかったのは「逃げたい時、応援という真心が背中を押してくれた」から。

学びは事業にも直結しています。以前は社員に「責め心」を抱くことも…、塾を経て「矢印が自分に向いた」といいます。自責の姿勢で社員への接し方を日々改善。

家庭でも話を聴く姿勢を重んじ、夫婦喧嘩が激減しました。生活リズムの合わない奥さんとは、ミニ黒板を使用しての伝言で思いを伝える実践が良い方に作用。

副専任幹事の頃は自分のことで精一杯。専任幹事となった今は、感謝を行動で示す立場だと感じています。

「まだ未熟ですが、だからこそ、より良い会にするために何ができるか？」と語る姿は、次に繋ぐ「恩送り」の実践そのものです。同期を「同じ釜の飯を食った仲間」と呼ぶ林専任幹事。

自己変革を願う方にとって、後継者塾は揺るぎない起点となるはず。

後継者倫理塾 修了生
林 都史
江東区 専任幹事

すべての矢印が自分に向く感覚です

傲慢さを手放し、真の「謙虚さ」へ 後継者倫理塾で得た心の脱皮

柔道に打ち込む学生時代を経て、野村高士さんは25歳で実家の工務店を継ぎました。現場で直面したのは、自分で作業はできるものの、社員教育の方法が分からず組織作りで悩む壁でした。解決の糸口を求め、PTA活動などで周囲の洗練された振る舞いに感銘を受けます。「倫理をしっかり学びたい」という想いから、2020年、後継者倫理塾への入塾を決意されました。当時の野村さんは事業の成功体験もあり、「自分はずまくやれている」という傲慢さがあったと言います。塾での暗唱テストや挨拶実習などの「型の稽古」は、指示を出す側だった彼に、強制的に「やられる」プレッシャーを経験させました。「本気で練習する場は、なかなかありません。この経験が、芽生えていた傲慢さを打ち砕くために必要でした」と振り返ります。真の変化は、塾での学びを土台に、その後の経営的苦難の中で訪れました。それまでは見せられなかった「本当に困っている」という弱音を、初めて倫理の仲間にもさらけ出したことが、自身の殻を破る転機となったのです。おはよう倫理塾への参加を誓った「100日実践」でも、連続では通えなかったですが、挫折しかけた際にLINEで報告し合う仲間の存在が支えとなりました。「一人だったら折れていた。仲間がいたからこそ、やり遂げられたのです」。この実践を通じ「仕事と家庭は一つ」と確信した野村さんは、現在は奥謙と訪問看護事業を営み、相手の気持ちを深く知ろうとする姿勢へ転換されています。品川区の会長を務める現在も、自らの「本気度」という課題に真に向き合っていると言います。「塾は「後継者につなぐ塾」。一度断ち切った繋がりを、今度は承継させていきたい」。その心には、仲間と共に歩む強固な謙虚さが根付いています。

後継者倫理塾 修了生
野村 高士
品川区 会長

すべての矢印が自分に向く感覚です

塾は10ヶ月で倫理をぎゅつと学べるんです。

後継者倫理塾 前塾長
下原 直子

塾は入口、
修了はゴールではなく
次のステージへの通過点
塾は「基盤」学びは始まり
「百日実践」で平らかな心、継続は力

「塾での学びはゴールではなく、修了後こそが本当のスタートです」。後継者倫理塾の前塾長、下原直子氏は語ります。自社の現社長や役員、親族を塾生として送り出してきた歩みは、次世代への深い信頼に裏打ちされています。下原直子氏は塾の十ヶ月間を、成長の「基盤」を築く「小学校」と位置づけます。倫理歴は問いません。むしろ先入観なく飛び込んだ人ほど、目を見張る成長を遂げるといいます。この期間、最も肝要なのは「百日実践」をやり抜く決心です。ただし、単なる継続では不十分です。「学んだ倫理を家庭や仕事の現場にしっかり落とし込んでいるか。何のために実践するのか重要です」と下原直子氏は説きます。自分自身の心を変え、相手への想いや過去の捉え方を新しくしていく。塾での実践を通じてこの「心の変革」を体得してこそ、修了後の心の起伏は平らに整い、道が開けるのです。多くの塾生を見守ってきた下原直子氏が説く「実生活に活かし続ける大切さ」。承継に悩む経営者や、後継者候補の方こそぜひ門を叩いてください。ここで築く揺るぎない「基盤」が、次へ踏み出す一生涯の土台となるはずです。

3/21(土) 体験見学会開催! 会場 ジョイビレッジ芝公園 6階会議室 東京都港区芝3-15-5

9:00~10:30 工藤直彦法人スーパーバイザーによる七つの原理講義「発頭還元の原理」とオリエンテーションです。ご参加はQRコードよりお申し込みください。



同窓の繋がり 倫理と大学OB・OG会

絆が育む「普及と定着」の形 東京都倫理稲門会の挑戦

「母校」という共通のルーツが倫理の学びと結びついたとき、会員同士の繋がりには新しい形が生まれます。東京都倫理法人会において活動を広げる、早稲田大学出身者で構成された「東京都倫理稲門会(とうもんかい)」の歩みをご紹介します。

組織化の軌跡と「おせっかい」の文化

東京都倫理稲門会は2019年、わずか8名の交流会から始まりました。口コミで着実に輪を広げ、2025年2月には早稲田大学の校友会組織として正式登録を果たしています。会の土台にあるのは、同じ学び舎を背景とした「寄ってたかって盛り上げる」という温かな文化です。独自の名簿には卒業年度や所属単会、個々の想いが詳細に記され、メンバーを結びつける一助となっています。入会直後の不安な時期に、同窓の先輩が積極的に関わることで生まれる安心感は、新入会員が会に馴染むための支えとなっています。

稲門祭での「倫理の実践」

活動は懇親に留まりません。一つの転換点は、校友会最大のイベント「稲門祭(とうもんさい)」への出店です。臘脂色ののぼりを掲げたブースでの和洋菓子販売は、完売御礼の盛況ぶりを見せました。特筆すべきは、この出店を「倫理の実践」の場とした点です。朝礼で磨いた活力ある挨拶をキャンパスで披露する姿は、来場者へ活動の魅力を伝える「普及」のひとつの形となりました。今後は女性経営者を中心としたシンポジウムも構想されており、活き活きと活動する姿を通じて若い世代へバトンを繋ぐ未来を描いています。

所属を超えた「居場所」の可能性

こうした動きは他大学にも波及し、自発的な集まりが各地で生まれ始めています。地域の単会という活動の軸を大切にしながら、「共通のルーツ」で気兼ねなく笑い合える居場所を増やすことは、会員同士の心理的距離を縮め、組織の風通しを良くします。出身地や趣味といったルーツに基づき、所属の壁を越えて語り合える場を創ることは、一人ひとりの「楽しさ」に繋がります。東京都倫理稲門会の取り組みは、その実感が倫理法人会全体の新しい活力に寄与する可能性を示しています。



渋谷区中央倫理法人会
渡部 誠 相談役

新宿区倫理法人会
善竹 十郎 幹事

新宿区倫理法人会
日比谷 美代子 会員

東京都倫理法人会
伊藤 功 キャリア副委員長

東京都倫理稲門会

東海大学かもめ会



あきる野市倫理法人会
武田 哲郎 会長

新宿区倫理法人会
鈴木 由香 会員

町田市倫理法人会
柏木 英一 副会長

中央区倫理法人会
栗崎 由紀江 会長

中央区倫理法人会
都筑 美好 相談役

『倫理法人会東海大学かもめ会』は 東京都のみならず 全国区で展開しています。

付属高校やご自身が東海大学の卒業生でなくても何かしら関わりある会友・倫友には「かもめのたまご倶楽部」に所属して頂き、繋がりを広げております。

所属単会の垣根を越えた大学のOBOG会があって、何やら楽しく活動しているらしいとの噂を耳にした本誌、活動内容をさっそく調査してみました。



深川倫理法人会
及川 祐介 会長

新宿区倫理法人会
丸山 克彦 第7代会長

霞が関倫理法人会
高嶋 邦浩 幹事

倫理立教会

共通の精神が紡ぐ、 倫理と母校の絆

「倫理立教会」が育む、利害を超えた温かなつながり

「倫理立教会」は、母校の絆を軸に会員同士が交流を深める職域を超えたネットワークです。その歩みは約7、8年前、立教OBで当時世田谷区倫理法人会相談役の池田公之氏(故人)、埼玉県倫理法人会清水良朗法人スーパーバイザー、新宿区倫理法人会丸山克彦7代会長、紀尾井町倫理法人会高嶋邦浩副会長の4名が、神宮球場で野球部を応援したことからはじまりました。倫理立教会を作ろうと高嶋副会長らが奔走し、現在は候補者を含め106名を数える規模へと発展を遂げています。

本会の精神的な拠り所は、立教学院の建学の精神「Pro Deo et Patria(神と国とのために)」です。この言葉には「まず自己を確立させ社会に貢献する」という想いが込められており、立教OBである東京都倫理法人会山口哲史会長が掲げる「自己革新」や、倫理法人会の「地域貢献」とも強く共鳴しています。丸山7代会長は、この精神の共有が会の格調の高さと心地よい親和性を生んでいると語ります。

活動は2ヶ月に1回程度のランチ会や野球応援が中心です。会場にはOBが経営する池袋の鰻店や中華料理店を利用し、ゆかりの地で親睦を深めています。今後は「質」の向上を重視し、ランチ会を貸し切りすることで一人3分の自己紹介時間を確保。山口哲史東京都会長による講話も、本会ならではの貴重な学びの場です。

今後は人生の壁に直面した際も互いに助言し合える関係を目指します。家族参加型イベントなど親睦も広げる計画です。「仲間と倫理を学びたい」という立教愛に満ちた情熱が、これからも全国のメンバーを温かくつないでいくことでしょう。

共通の背景が育む絆 「倫理三田会」の活動

倫理法人会での学びを深める一助として、所属単会や地区の壁を越えた有志による交流が広がっています。その一つが、慶應義塾大学の卒業生で構成される「倫理三田会」の活動です。



霞が関倫理法人会
澤 洋右 幹事

青山倫理法人会
壽原 友樹 事務長

渋谷区倫理法人会
小林 創 相談役

一般社団法人倫理研究所
藤間 秋男 参事

墨田区倫理法人会
本橋 匠 副専任幹事

倫理三田会

本会は、昨年より活動を本格化させました。現在は10名以上の名簿を整え、大学の同窓会組織である「連合三田会」への登録に向けた実績を積み重ねている段階です。参加者は東京都内に留まらず、神奈川県や埼玉県などからも集まり、広域的なネットワークを形成しています。

大学本体から独立した「自主運営」を伝統とする慶應義塾の校風は、会員同士の心理的距離を縮める一因となっています。同じ学び舎で過ごした安心感や共通の価値観は、モーニングセミナー以外の場での親睦や、多角的な情報交換を支える強固な基盤です。今後はメッセージ等を活用した交流を通じ、倫理を共に学ぶ仲間としての結束をさらに強めてまいります。

イベント開催報告



日時:2026年1月14日(水) 18:30~20:30 / 場所:武蔵野スイングホール / 講師:一般社団法人 倫理研究所 研究員 寺嶋朗圭 氏

都内46単会のモーニングセミナー(MS)運営を牽引する指導力向上を目的に、67名の会員が出席し、「MSクリニック」が開催されました。寺嶋研究員を招聘し、マニュアルの奥にある登壇時の細かな所作や進行の神髄を徹底的に学ぶ場となりました。研修では、相手を思う「心」を「形」に表す実践に重点を置き、座学だけでは得られない深い気づきを共有しました。会場は温度が上がるほどの熱気に包まれ、参加者が一体となって「香り立つような活気」を体現していました。

MS委員長
無木大氏

「マニュアルや文字だけでは伝わりきらない「熱気」や細やかな所作を、実践形式で共有することの重要性を痛感しました。会場の温度が上がるほどの一体感や、会員・ゲストの心に響く空気感を作り出すために、私も尽力して参ります。」

MS委員長
岩橋展子

「こうでなければならない」という責め心を手放し、まずは相手を思う「心」を大切に、それを「形」に表すことの重要性を再認識しました。マニュアル通りに行う事は大前提ですが、それ以上に、クリニックを通じて得られた「心の在り方」や「楽しさ」を単単に持ち帰っていただきたい。」

in 武蔵境

参加者の感想

体を動かして覚えることができ、わかりやすかったです。(小金井市 専任幹事 山岸祐介 氏)
モーニングセミナーはやっぱり心を磨く大切な実践の一つだと感じました。(羽田空港 運営委員 大塚さな枝 氏)
日からウロコ、すごく奥が深かったと感じました。今日はドキドキの時間ばかりでした。(東村山 幹事 西山澄江 氏)

実践体験報告会

1月24日、全国家電会館にて、東京都倫理法人会研修委員会主催による「実践体験報告会」が開催され、207名が参加しました。

本会は、純粋倫理の実践を通して得た気づきや成果を共有し、今後の実践力向上と普及を目的として行われました。当日は4名が登壇。発表順に、第四ブロック代表・小河原悠司専任幹事(武蔵野市三鷹市)は、後継者倫理塾での学びを通じ、父への反発心が感謝へと変わり、親子関係が改善された体験を発表しました。第三ブロック代表・渡邊剛之会長(北区)は、母の闘病と父の介護を通して親の心に寄り添う大切さを報告。第二ブロック代表・田村仁美会員(文京区)は、倫理を経営の軸に据え、会社を再建した歩みを語り、第一ブロック代表・渡辺圭副専任幹事(江東区)は、日々の倫理実践による自己成長と信頼関係構築について述べました。

また、飯作文俊、小林良子両法人スーパーバイザーが各発表に対し、実践の要点や心の向け方について具体的に解説し、講話の理解を一層深めました。会場では涙を拭いながら熱心に耳を傾ける姿も見受けられました。津隈亮二首都圏方面長は総評で「親とつながることが困難を乗り越える力になる」と述べ、参加者の心に深く残る報告会となりました。

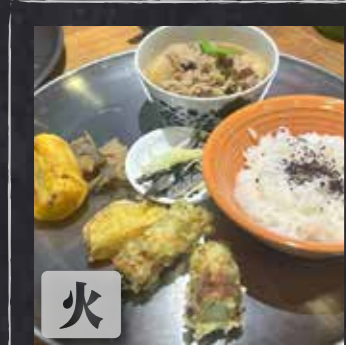
男女格差118位の日本を 変えるのはあなた!

国連日本ウイメン協会・橋本ヒロ子氏が熱弁ふるう

東京都倫理法人会女性委員会は1月21日、第2、4ブロック主催「女性経営者セミナー」を文京区シビックセンターで開催しました。男女共同参画推進総理大臣賞を受賞した橋本ヒロ子氏(国連日本ウイメン協会理事長)が登壇し、盛況のうちに終わりました。
講演テーマは「男女格差118位の日本を変えるのはあなたです!!」。長年の国際的な経験を踏まえ、橋本氏は「世界から見た日本の男女共同参画の現状を解説。女性経営者らの行動変容への意欲を高めました。
講演の熱気が冷めやらぬ中、参加者からは、今後の活動の指針となるような具体的な感想が寄せられました。「女性の地位を高めるにも地域からの活性が大切だと言われました。これから、日本が良くなるためには、女性の力は益々必要です。あるもの、やはり愛和の心が大切だ」ところでも気づかせたい時間を過ごした。」といった声が上がりました。
変革を目指す女性経営者にとって、講演と参加者同士の意見交換は、未来を切り開くヒントに満ちた一日となりました。

~橋本ヒロ子氏に学ぶ女性活躍とジェンダーと職場改善のヒント~

日時:2026年1月21日(水) 10:00~11:50
会場:文京区シビックセンター 5階 区民会議室C
参加費:500円/定員:先着72名(どなたでも参加OK)



火

①立川・昭島

ニューヨークピザ&ジュレートV(ブイ) 1000円

今期から立川昭島の朝食は自給自足のスペシャル朝食です!毎週手作りの朝食と淹れたてのコーヒーが飲める。朝食会だけでパワーがもらえる会場になっています!



水

②東村山市

菓子処あかぎ 赤飯弁当 600円

ふっくら炊き上げた特選もち米の赤飯に、旬の味を添えて。食後は、香ばしいなごまだんごでほっと一息。心も満たす、やさしい味わいのお弁当です。



水

③府中・調布

MS特製朝食セット 500円

会員さんのお店で用意してくれる、毎回違った内容のお茶・朝食セット。



水

④福生・羽村

食道いし川 刺身定食 500円

「食道いし川」のお刺身定食なんと500円です。多摩自慢の有名な石川酒造の敷地内にあります。



木

⑤武蔵野市・三鷹市

トホペーカリ 500円

武蔵野市・三鷹市は地元で有名なトホペーカリさんの焼きたてパンとホテルのコーヒー。



木

⑥町田市

クロックパン&お弁当 あくせる まちりん弁当 800円

提供はお弁当とクロックのあくせるさんひのたまの会員さんのお店です。追加物なしの手作り弁当。そして会員の齋藤真知子さんの糠漬け



金

⑦あきる野市

選べる朝食 600円

駅前パン屋で焼きたてパンが配達で届きます。カレーパンはカレーパン屋さんで金賞連続受賞。惣菜パンは週替わりなので毎回楽しみおむすび弁当は握りたてで、具材も毎週違うのでこちらも楽しみ!!



金

⑧ひの多摩

クロックパン&お弁当 あくせる

ひの多摩会員 木目田さんのお店。お弁当とクロックのあくせるさんのお弁当。毎回お返しをしてくれる美味しいお弁当です。金曜日の朝は、想いのこもったお弁当でスタートしてエネルギーをチャージしています!

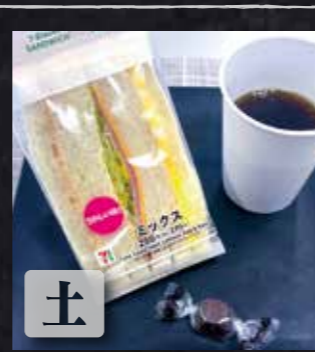


金

⑨八王子市

会席茶屋お籠なか 500円

これは会員の方が毎週1時に起きて!!、ご飯の仕込みから始めて作られる朝食なんです。寸胴で持ってこられて会場まで温めて熱々を提供される味噌汁も最高です!



土

⑩小金井市

特選軽食 200円

コンビニスタッフの会員さん特選軽食! コーヒー付セットで200円。シェア会のお供にぜひ。

第四ブロックMAP

AIによる自己革新

第3回



倫理法人会の活動では、「まず自分が動く」ことの大切さを何度も学びます。トップが先に行動することで、周囲の空気は変わります。AI導入の成功・失敗も、この原則と無関係ではありません。多くの企業でAI導入を支援してきましたが、うまくいかない場合はたいてい、経営者が自ら使っていないのです。現場任せにすると、AIは形だけになり、活用が進みません。ある会社では、社長がAIを使い始めたこと、社員の活用意欲が急上昇しました。朝礼で社長自ら事例を共有したことも、社内の空気を変えるきっかけになりました。経営者がAIの可能性Zを理解すれば、組織をドラスティックに変えることができます。それは単なる業務改善にとどまらず、企業文化そのものを進化させる力になります。

執筆：あいり先生

失敗の原因は意外とシンプル

経営者が自らAIを使う意味

朝礼マイスターへの第一歩、スタートアップ研修を開催

朝のスイッチ！ 活力朝礼の極意

～朝礼委員会の現場から～

令和8年度の折り返し地点が近づく中、朝礼委員会では「企業の活力」を支えるリーダーの育成に力を注いでいます。1月16日に開催された第5回定例会では、昨年末に急逝されたアレックス小倉前委員長への哀悼の意を込め、全員で黙祷を捧げてからスタートいたしました。前委員長の志を受け継ぎ、私たちはさらなる一歩を踏み出します。

今回の定例会では、37名の皆様にお集まりいただき、朝礼マイスター認定の必須条件の一つである「スタートアップ研修」を実施しました。山城研究員によるご指導のもと、冊子『活力朝礼』に基づき、姿勢や指先の動作など基本の「形」を徹底的に確認。特に強調されたのは「笑顔」の大切さです。「顔が怖い」というご指摘を受け、意識を切り替えた後の皆様の表情の変化は、まさに「明朝」そのものでした。ここで、前期から推進している「朝礼マイスター制度」について改めてご紹介します。これは、活力朝礼の導入支援や指導を行う専門家を認定する制度です。認定には以下の5つの要件が必要です。

- スタートアップ研修の受講
- 「活力朝礼見学」への参加
- 単会所属企業への「朝礼指導」の実践(1回以上)
- 定例会への年6回以上の出席
- 活力朝礼甲子園へのスタッフ参加

3年間の継続で「マスターマイスター」の称号も授与されます。形から心をつくり、職場に笑顔を広げる。その先頭に立つマイスターを目指して、共に学びを深めてまいりましょう。

柳澤 真由美

東京都倫理法人会 朝礼委員長

4・5月のイベントスケジュール

4月

- 3日(金) 【練馬区・北区・豊島区】自主企画
- 7日(火) 研修委員会 菜の学習会 18:45～21:00
- 青年委員会 定例会(事) 19:00～20:30
- 8日(水) MS委員会 定例会(事) 18:30～
- 9日(木) 定着委員会 定例会(事) 18:30～19:50
- 11日(土) 後継者倫理塾 ～12日(日)
- 広報委員会 定例会(事) 11:00～13:00
- 17日(金) 朝礼委員会 定例会(事) 19:00～20:30
- 【世田谷区】自主企画
- 18日(土) 【上野】倫理経営講演会
- 19日(日) 【新宿区】40周年
- 20日(月) 研修委員会 定例会(Zoom) 18:30～20:00
- 女性委員会 定例会(事) 10:30～12:00
- 【紀尾井町】自主企画
- 25日(土) 倫理経営実践塾 ～26日(日)
- 【墨田区】倫理経営講演会
- 【葛飾区】倫理経営講演会
- 【小金井市】自主企画

5月

- 9日(土) 後継者倫理塾
- 12日(火) 青年委員会 定例会(事) 19:00～20:30
- 13日(水) MS委員会 定例会(事) 18:30～
- 【千代田区】倫理経営講演会
- 15日(金) 朝礼委員会 定例会(事) 19:00～20:30
- 【大田区】自主企画
- 16日(土) 広報委員会 定例会(事) 11:00～13:00
- 【府中・調布】倫理経営講演会
- 18日(月) 【八王子市・町田市・ひの多摩】自主企画
- 研修委員会(Zoom) 18:30～20:00
- 【江東区】自主企画
- 19日(火) 女性委員会 定例会(事) 10:30～12:00
- 21日(木) 定着委員会 定例会(事) 18:30～19:50
- 23日(土) 後継者倫理塾 100日実践報告会
- 倫理経営実践塾 ～24日(日)
- 【東村山市】倫理経営講演会
- 【立川・昭島】自主企画
- 【羽田空港】自主企画
- 【福生・羽村】自主企画
- 26日(火) 東京都新入会員オリエンテーション
- 30日(土) 会員スピーチフェスタ 単会代表選出
- 31日(日)

注目!

(事)：場所 事務局会議室



編集後記

取材で感じた共通点は、親子関係や対務者の目を遠ざけた現在地を徹底把握する姿勢です。現在地が明確になれば、目的地への道筋も自然と見えてくる。この実践が会の運営にも活かされていくと感じました。(小金井市/高岡 裕)

今月号は取材を増やし、多くの広報委員で記事を作成しました。取材にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。これからはより多くの広報委員で制作し、実践の輪を広げていきます。(霞が関/高 健太郎)

「後継者倫理塾」に参加の大澤さんのお話し大変興味深かったです。結局そのエッセンスを感じていただければ幸いです。広報委員として、取材をすることで「倫理活動」を学ぶ機会が増えているのを感じました。(文京区/松岡 知宏)

単会ごとに懇話会の雰囲気が出て面白いですね。写真も撮りながら、次はどの単会に同僚かという楽しみが広がりました。この機会に地会訪問してみたいか(武蔵野市/三度平/清水 洋子)

大学OB会を取材させていただきました。皆さん倫理愛以上に大学愛があってとても素敵なコミュニティで交流、活動されていました。東京都内では珍しい(深川/中場 信太郎)

皆さんに聖やイベントを知ってほしい会をきっかけに「ほいほい」を感じる一方、取材を通じて自分自身も学んでいることを実感しています。皆様ぜひ委員会活動やイベントにLet's Join!!(渋谷区/須貝 一史)

MSクリニックを取材の機会をいただきました。参加者の熱心な姿勢が熱い会場を包み込んでいました！各単会のレベルアップ関連はいい!!(新宿区/大下 久夫)

後継者倫理塾の取材は、引き継ぐことの重要性を知り、経営面でもなるかな、単会の紹介を見直すいい機会になりました。多くの方が知らない、また紹介取材は単会までという話になりました。(杉並区/青山 英一)

二つの大学OB会を取材させていただきました。同じ母校という繋がりが単会の絆を伸ばし、倫理が様々な形で広がっていく可能性を感じました。初取材で緊張しはじめていたが、楽しかったです(渋谷区中央/中村 悦子)

実践塾の取材をしました。穏やかな雰囲気の中にしっかりと緊張感で、普段では味わえない空気感を感じました。真剣な熱意と愛情溢れる講師を見ることができ、良い経験を得ました。(上野/木下 英幸)

昨年度はCamera、今年度はChatGPTを学びながら、役得で素晴らしい生インタビューを担当させて頂き、常にチャレンジさせて頂いております。(杉並区東/小林 達子)

実践塾と実践体験報告会の取材をさせて頂きました。なかなか普段お話し出来ない方の貴重なお話を直接お聞きでき、自分自身の人生もまた変わりに変化しています。(練馬区/石原 希代子)

大学OB会の取材に参加させていただきました。倫理塾+大学愛(キリスト教の教が倫理につながる事も多い)で、これからはもっと質を上げていきたいとの事、素敵だなと思いました。(いたばし/龍 真理子)

「初めての取材」は緊張しますが、これが倫理の仲間である。協力的に、素直に、本音で話して頂きました！後継者倫理塾の恩返し、感謝と絆は素晴らしい。そして広報のスタイルも素晴らしい。(江東区/古川 幸子)

OB会の取材楽しかったです。大学の皆様が発見していることに感動されました。記事への編集作業は大したこと出さずご迷惑を…次号への反省です。(湯島/桐根 洋治)

委員長、副委員長の丁寧なフォローのおかげで、取材初心者の広報委員メンバーも安心して参加することが出来ました。東京都倫理法人会の素晴らしい活動の多さを多くの方に届けています。(霞が関/澤 洋右)



倫理経営実践塾

イブニングセミナー

2026 **3.25** 水曜日
18:30~21:00 (開場 18:00)

会場 文京区民センター2-A会議室

住所 東京都文京区本郷4丁目15-14

参加費 3,000円 ※セミナー後懇親会あり



講演
内容

変化の時代を生き抜くための 倫理経営とその実践

倫理経営とは、頭で理解するだけの経営ではありません。確固たる「経営理念」と「経営計画」を作成し、何よりも「実践」によって経営を確かなものにしていくことです。本セミナーでは、経営に不可欠な「財務力」と「マーケティング力」を兼ね備えた倫理経営の実践者が登壇。圧倒的な実績を持つ講師と、現場での実践報告を通じ、企業繁栄の核心に迫ります。

- ・ 経営理念に基づいた正しい経営
- ・ 財務体質を強化し強靱な経営体制を構築
- ・ 倫理経営実践塾でしか得られない大切なこと

講師

古田土満 氏

税理士法人古田土会計 代表社員税理士

税理士・公認会計士の古田土満氏。茨城県出身、法政大学卒。古田土式月次決算書を開発し、42年間で四千社を支援、2024年旭日単光章受章、営業なしで年百件超の新規顧問を獲得、延べ六千名を指導実績あり豊富。

実践
報告

杉林強 氏

J-TOPGroup代表取締役
東京都倫理法人会多摩西地区長
倫理経営実践塾第1期生



参加方法・申込方法

[主催] 倫理経営実践塾 [お問合せ] rinri.keiei.jissenjyuku@gmail.com



一般社団法人倫理研究所 東京都倫理法人会

[お申込QR]



広報委員会

本誌アンケートのお願い

左記のQRコードより、アンケートにご回答ください。所要時間は1分程度です。今後の参考とさせていただきますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

